

話題の最前線を行く

# 成功のヒミツ 失敗しないコツ

<302>

若者の起業支援をする和歌山県田辺市の「たなべ未来創造塾」が評判だ。塾は市・大学・金融機関・地域事業者との連携で2016年から始まり、21年までの5期で58人が参加。4期までの47人の修了生のうち70%以上である33人から新たなビジネスが生まれている。塾は移住や定住にもつながっている。和歌山県自体が力を入れているためだ。都市から移住を検討する人

## たなべ未来創造塾

# 富山から 和歌山へ 地域を超えて広がる 起業支援



移住して起業した金丸知弘(右)と妻(左)の笑顔。提供：金丸弘美

あった。

実は筆者は塾の存在を長男の知弘から知った。田辺市龍神村へ東京都目黒区から息子とその妻、娘の3人で移住し

たのだ。

「私が田辺市を知ったのは東京・有楽町にある『ふるさと回帰支援センター』のセミナーです。自然が多く、土地と物価が安くて食材が豊富。入居した家は3LDKで家賃2万5000円。イタリアへの料理留学の技術を生かしたジャム工房をやっていますが、日本政策金融公庫の融資を受けて一軒家を購入し、ゲストハウスも始めました。塾は市から推薦されて1期生で入塾。仲間と広い人間関係が一気にできて仕事にもつながりました(知弘)

一方、息子の妻のりさは、「現地に行き、水のおいしさと自然に引かれました。娘は友達と離れたくないと猛反対でしたが、移住してすぐ学校で友達もできました。私はタイサービスと福祉協会でヘルパーの仕事をしています」と話す。

塾は公募と推薦で役場の担当者が面接して、20代から40代で起業に意欲あるメンバー12人を選抜。14回の講座で事業計画を作って発表。事業計画立案では金融機関がアドバイザーとして優れた計画は融資を受けられる。受講料は全14講座で1万円。講座の前半では実践者の具体例を講義で学ぶ。後半は塾生らが事業を討議。修了式では金融機関、商工会、大学、塾の関係者の前でプレゼンして表現につながる。

塾が画期的なのは、将来の交流とビジネス連携につながるよう入選がなされていること。デザイナー、設計士、農家、料理家、林業、飲食業、福祉関係者など多様だ。塾からは商店街の空き店舗で開業したパン店、農家と連携したジビエ工房、空き家をリノベーションして新たな用途を生み出す工務店をはじめ、さまざまな事業が生まれてきている。

そもそも塾は富山大学と高岡市(たかおか共創ビジネス研究所)、魚津市(魚津三太郎塾)で成果を上げたノウハウが田辺市に持ち込まれて生まれたもの。田辺市職員は協定を結ぶ富山大学で運営管を学び、市で実施することで地域にノウハウが形成されていく仕組みだ。富山大学と田辺市の活動は、「やつしる未来創造塾」として、熊本県八代市にも広がっている。

(取材・文)金丸弘美